

ENGINE

意外にもゴテゴテになっていない
エンジンルーム。ドイツ車はやはり
元の作りがいいのだろうか。



この見た目でもフル内装！
デートもこなせる仕様の車
だがロールケージはカノ
ジョには不評だとか…



妥協を知らないヤル気仕様

新しく導入されたスタンサーを使用し、タイヤハウスマギリギリに収まるトレッドに揃えられる。そこに収まるホイールはYayo Chan制作のBBBがあしらわれる。オーナーは首都高のPAでリムに缶コーヒー、やペットボトルを乗せて写真を撮るのがマイブームだと語る。エンジンはD-EKAスタム内でのチューニングに留めており、ハンドリングエディターは使っていない。ドリフトはもちろん、首都高に持ち込めばSS54B322がその咆哮を高らかに響かせるという。尚、「ニ」までやつているがしつかりと車検対応にまとめるため排気もしつかりと対策をしている。いまだに完成はしていないといふこの車でオーナーは一体何を目指すのか。ど「に」に向かうのか。この車の完成した姿でまた現れるのを願うほかない。



10月1日、突如として追加されたその車はSentinel MS-2である。某ドイツ製車両に瓜二つのこの車はその原型をどめておらず、至る所に入念に計算された機能美ともいえる外装パーツに身を包む。オーナーは実装当日、ノーマル状態だった車体をここまで仕上げるのにゲーム内通貨を50,000ドル程つぎ込んだという。オーナーはこの車を「安心して攻められる魅せる車」というコンセプトで作成したという。この唯一無二の仕様は大きく貼りだしたフエンダーに空力を意識したエアロバー。そして大胆にモリアバンパーを取り外したバンパーかつとスタイルになっている。以外にも外装は目を引くエアロバーで揃えてあるが、意外にもフル内装になつている。



EXTERIOR

強力なダウンフォースを生む
spoilerはドライカーボン
製。リアバンパーを外すこと
で空力を強化しているが重量
バランスの悪化がネック。